

安否確認訓練ご苦労様でした

2025.12 防災部長 初鹿

——私はこの訓練を最も重要な行事と思っている——

2025年12月14日(日)午前 第15回安否確認訓練を実施。

冷たい小雨の中、町内会の皆さまよく頑張って頂いた

町内会員の方はタオル出しと声掛け、組長さんは声掛け漏れチェックと報告、班長さんは組長報告を集計、それぞれが連動した素晴らしい訓練だった



組長が声掛け漏れをチェック



組長の報告を班長が受付



冷たい雨の中、組長さんご苦労様



班長が集計中

今回の結果は次の通り

①「タオル出し忘れ」は85軒。在宅551軒の15%、6軒に1軒の割合
例年より悪いが、高齢独居が多いので100%は無理。こんなもんかな。

②目標1「声掛け漏れナシ」は参加した49組のうち48組が達成

「声掛けしなかった組の理由」は組員が町内会活動に非協力的で、例年声掛けすると嫌な顔をされるので、今回は声掛けしなかったとのこと。

③目標2「組長に頼らず声掛けする（声掛け共助）」を実践したのは15組。参加49組の30%。ここ数年より悪化したのは悪天候の影響が大きいと推定している。

至近の7回で共助声掛けを1回もしない組が13組ある。一方で、ほぼ毎回実施した組が7組ある。（1回でも実施した組が33組、4回以上実施が15組）
また、組員の半分以上が声掛けしている素晴らしい組がある。

15 年間訓練を続ける中で考えさせられたこと

1. 訓練は誰のためのもの？

自分の身は自分で守るが大原則。だけど災害時には自分ではどうにも出来ない事態が起こる。

その時、頼りになるのは遠くの親戚よりご近所、向こう三軒両隣。

気心が知れた人には声をかけても、知らない人には声かけしにくい が世の常。

自分から積極的に声掛けして顔見知りを広げることが自分を守ることにつながる

2. 受け身で待つか 自分で掴みに行くか

共助声掛けをしなかった方と実施した方との違いは何だろう？

やっても仕方がないとの諦め感、やらされ感に基づく受動的気持ちと

やれば見返りがあるかも、やるしかないとの能動的気持ちの違いだと思う

お祭り、地区レク、芋煮会、防災訓練などの町内会行事はすべてが親睦を深める目的だ。

これらの行事に積極的に参加し親睦を深めれば災害時の共助につながる。イザの時のための備えといっても過言ではない。

そして「参加してよかった、楽しかった」、と感じてもらえる工夫が大切

3. 異なる価値観に振り回されない

町内会行事に協力的ではないなど、価値観が違う方がいる。

ある程度は仕様がなないこと。無理やり引き込むことはできない。

また、「地震や大津波より一番怖かったのは人間だった」という東日本大震災の語り部の話が頭に残っている。

声の大きい元気な人がわれ先に食料や避難スペースを分捕ったそう。

そういう時こそ、価値観を共有する仲間が団結し助け合う。それが自分を守る事につながる。

まさに共助。

そういう町内会を目指したい。 大東町内会のスローガンは

**自分を守る、家族を守る、近所を守る、
イザの時の頼りは「向こう三軒両隣」**

以上